

施策評価シート（平成26年度実績評価）

◎ 施策の基本情報

総合計画中期プラン	政策No.	2-2	政策名	生活基盤の充実	政策の 目指す姿	生活に必要な基盤が整い、 快適に暮らしています。	施策 主管課	道路課	施策主管 課長名	高橋 雄光
	施策No.	1	施策名	道路環境の充実	施策の 目指す姿	安全で利便性の高い道路が 整備されています。	関係課名	都市政策課		
	現状と課題	・市民のニーズに沿った市道整備と国県道の整備要望を進めてきましたが、整備や維持補修の要望は現在も少なくない状況です。 ・除雪機械の老朽化や運転技術者の減少が進んでおり、除雪体制の維持が懸念されています。 ・市内にある橋長15m以上の橋梁209橋のうち、耐用年数50年を超過した橋は25橋あり、橋梁の老朽化が進行しています。								

1 施策の目指す姿の実現に向けた主な取り組み実績

(1) 道路の整備・維持管理 ○ 主要幹線道路、都市計画道路、生活道路の整備 ・ 幹線道路0.6km、生活道路3.8kmを整備 ○ 舗装修繕等の道路環境の維持 ・ 舗装修繕8.5km 補修件数426件 ○ 交通安全環境の整備 ・ 道路整備事業により、歩道0.5kmを整備 ○ 国県道の整備要望 ・ 国県道の整備を直接又は関係整備促進同盟会等で要望 ○ 除雪体制の効率化 ・ 道路除雪1,929km 除雪回数83回 (2) 橋梁の整備・維持管理 ○ 橋梁長寿命化修繕計画に基づいた橋梁の維持修繕や架け替え整備 ・ 橋梁補修事業により朝日橋の修繕を実施 ・ 橋梁整備事業により似内橋の架け替えが完了し、豊沢橋、太田橋は架け替えを実施中

2 成果指標

成果指標名	成果指標設定の考え方 (なぜ、この指標で成果を測ることにしたのか)	成果指標の測定企画 (どのように実績を把握するのか)	単位	数値 区分	H23	H24	H25 (基準年度)	H26	H27	H28
					目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値
市道の改良率	道路整備の度合いを示す指標	出典: 道路課 改良率=改良延長/ 市道延長	%	目標値				56.0	56.2	56.4
				実績値	55.5	55.6	55.7	55.9		
市道の舗装率	道路整備の度合いを示す指標	出典: 道路課 舗装率=舗装延長/ 市道延長	%	目標値				51.8	52.0	52.2
				実績値	51.1	51.4	51.5	51.7		
歩道の整備延長	歩道整備の度合いを示す指標	出典: 道路課 道路台帳	m	目標値				174,380	174,530	175,090
				実績値	167,593	172,039	173,970	174,425		

3 成果指標の達成状況

達成度	達成状況に関する背景・要因
B	<p>■ 成果指標「市道の改良率」・・・【達成度 b】 実績値が目標値を下回ったことは、市道整備財源である社会資本整備総合交付金(通常パック)が平成25年度から減少し、これに伴い事業費が減少したことが考えられる。</p> <p>■ 成果指標「市道の舗装率」・・・【達成度 b】 実績値が目標値を下回ったことは、市道整備財源である社会資本整備総合交付金(通常パック)が平成25年度から減少し、これに伴い事業費が減少したことが考えられる。</p> <p>■ 成果指標「歩道の整備延長」・・・【達成度 a】 歩道整備財源である社会資本整備総合交付金(防災・安全パック)が比較的安定していることに伴い、所要の事業費を確保できたことが考えられる。</p>

4 施策を構成する事務事業一覧

番号	事務事業名	担当課	施策への貢献度	
	事業内容(実績)		直結度	成果
1	生活道路維持事業	道路課	A	A
	生活道路の安心・安全を確保するため、修繕や補修、除排雪等の維持管理を行う。 (舗装修繕8.5km、補修件数426件、市域全体の除雪 12日)			
2	生活道路整備事業	道路課	A	B
	安心で快適な道路網を構築するため、市道の新設・拡幅改良及び、現道舗装、側溝整備を行う。 (道路改良2.7km、現道舗装1.7km、側溝整備1.3km、防雪柵0.5km、)			
3	橋梁維持事業	道路課	A	C
	予防保全型維持補修により橋梁の長寿命化を図り、通行の安全を確保する。 (朝日橋の補修を実施)			
4	橋梁整備事業	道路課	A	B
	安心で快適な道路網を構築するため、市道橋梁の架け替えを行う。 (似内橋整備完了、豊沢橋、太田橋の架け替え実施中)			
5	交通安全環境整備事業	道路課	A	A
	歩行者の安心・安全を確保するため、歩道設置やバリアフリー化等の整備を行う。 (歩道設置0.5km、融雪設備設置1箇所)			

5 施策を構成する事務事業の検証

(①市民ニーズや市の関与の必要性が低下した事業、②投入コストのわりに成果が低い事業、③施策への貢献度の低い事業はないか)

(施策の目標を達成するため、さらに成果の向上を図る事業はないか)

(新たに取り組むべき事業はないか)

・公共施設等総合管理計画に反映させるため、ストック総点検(橋梁、道路付属物、舗装、法面・土構造物)を実施し、長寿命化修繕計画を策定しなければならない。また、道路法に基づき5年に1回の定期点検(橋梁、トンネル)を行う。

6 施策の総合的な評価

(課題)

・橋梁架け替えを2箇所実施している状況下、道路整備財源の社会資本整備総合交付金の配分が減少してきており、その確保に向けた対策の推進が必要である。
・橋梁、道路付属物、舗装、法面・土構造物の点検経費及び修繕経費の増大が見込まれ、財源の確保と将来を見据えた効率の良い修繕を検討する必要がある。

(今後の方向性)

・安心で快適な道路網を構築するために、整備・修繕の財源確保の対策を図るとともに、公共施設等総合管理計画に従って、整備・修繕の効率化を検討する。